

# 管 理

## 和牛夏の管理

岡山県和牛試験場 赤木昭典

最近畜産と云えば、酪農、養鶏、養豚、と商品生産性の高い家畜にかくれて、和牛の存在が薄くなったようです。しかし和牛はわが国農業の存続するかぎり、その価値は失われるものではありません。和牛は労力と自給肥料の面で営農に寄与しています。そして近年貴重な食肉資源として重要な地位をしめてまいりましたことは将来性を期待出来るものと思考されます。

このように日頃御苦勞の多い飼育管理において如何にすれば有利な経営ができるか、心配されていることと思います。それにはまず健康でなくてはなりません。健康こそ有利な経営のもととなるものです。それが色々な条件によって少しでも障害を起せば経営を不利にみちびくこととなります。

そして1年四季を通じて環境を異にし、その時期に応じた飼養管理を行なうことが必要となってきます。

夏は夏としての問題点が生じて来ます。順を追って先ず7月は梅雨明けと共に急に暑さが加わって来ます。極端に換気の悪い牛舎では熱射病、または炎天下にさらされ日射病と云った病気に侵される恐れがあります。放牧地帯では6月上旬頃から放牧されていますが、放牧には健康を確認の上行なうことが必要です。

放牧による事故としてはダニの牛体寄生、外傷、特定の地域ではありますが霧酔病等は大いに牛を苦しめるものですから放牧監視を密にして未然に障害を防止しましょう。この地帯では7月下旬頃から9月初旬頃まで中間収放と云って約1ヵ月間が舎飼期です、原則として通風・換気・温度に気をつけて管理しましょう。蚊・虻・刺蠅の来襲のひどい時ですので防虫剤を使って防除しましょう。梅雨明けと共に乾草の調整時期でもあり、青草の十分ある時でもありますので十分給与いたしたいものです。

草を十分喰わした牛には塩の給与を忘れないよう

にしましょう、大体1日20瓦から50瓦見当でよろしい。農薬のかかった草の給与については十分注意しないと中毒を起して思わぬ死の事故を起すこともあります。

7、8月は1年中で1番暑い時です。暑気を防止する月です、舎内の通風を良くし舎外からの反射熱を防ぐため日覆を作る、夕方の川入等は大変結構な事です。

9月は放牧地帯では9月中旬から秋山放牧が始まります。秋山は春山と違って草質が悪く、牛もある程度の栄養低下を招く事になりがちですので、とかく過放牧にならないようにしましょう。又この時期は牧草の種播時期です。自給飼料確保のためつとめて草生改良を行ないましょう。

夏は害虫の来襲のための安静を欠ぐことと高温のための食愁の減退、役草の食い残しは高い醸酵熱で舎内がむれてくること、等の悪い環境が続くので十分な注意が必要です。

### ま と め

7月は収牧、酸敗飼料に注意、農薬に対する注意、ダニその他外部寄生虫の駆除、牛舎防暑設備。

8月は暑熱防止、外部寄生虫駆除、厩肥作り乾草作り。

9月は放牧、畦畔堤塘の牧草種子播種

以上夏の管理についての概要を述べてまいりましたが、その時期々々において色々問題点が残されています。従来和牛飼育に管理、飼料確保、施設など経営全般にわたって実に不合理な点が多く科学性に乏しい経験と勘にたよることが非常に多かったです。1つ1つに合理性を持たせた方向へと進んで行くことが望まれます。